



学校運営協議会便り

令和7年5月19日

学校運営協議会

会長 中西 俊章

下大利小学校

校長 赤阪 勝

学校の教育目標

地域に主体的にかかわる

子どもの育成

学校・家庭・地域の共育目標

地域・家庭・学校が協働した、子どもの
「思いやりの心」を育てる校区づくり

【三者でめざす子ども像】

- 地域や学校のきまりを
守ることができる子
- まわりの人に進んで
挨拶することができる子
- 地域の行事に進んで
参画する子

5月14日（水）14時00分より本校第2会議室にて、令和7年度第1回学校運営協議会を行いました。お忙しい中、委員の皆様にお越し頂き、学校・家庭・地域とともにめざす子どもの姿（共育目標）について確認するとともに一年間の具体的な計画について協議しました。



【第1回学校運営協議の様子】

まず、令和7年度下大利小学校学校運営協議会委員の皆様をご紹介します。

立石 泰之様	筑紫女学園大学 准教授	西原 正江様	ランドセルクラブコーディネーター
中西 俊章様	学校運営協議会会長・東大利副区長	中原 英貴様	市教育委員会地域連携課課長
倉掛 清隆様	学校運営協議会副会長・下大利団地区長	岩見 廣和様	のぞみ愛児園園長
村田 柳子様	民生委員児童委員	木村亜由美様	こゆ保育園園長
倉橋 奈緒美様	読み聞かせボランティア・主任児童委員	村岡 陽子様	大利中学校教頭
小野 誠様	P T A 副会長	赤阪 勝	校長
阿部 さやか様	P T A 副会長	秋山 三奈子	教頭
溝口 あゆみ様	P T A 副会長補佐	友延 倫子	主幹教諭

【第1回 協議内容】

○令和7年度学校経営について

はじめに校長より、本年度の学校経営の重点を中心に学校経営要綱の説明がありました。

本校の教育目標

地域に主体的にかかわる子どもの育成

本年度の重点目標

わくわくする心をもち、チャレンジする子ども ～わくわく登校 笑顔で下校～

○本年度の下大利小学校学校運営協議会の取組について

まず、教頭より、学校運営協議会の目的を確認しました。第1条（学校運営協議会規則）「学校、地域の住民及び保護者等による連携及び共働を推進し、もって学校が掲げる教育目標の実現に資することを目的とする。」と示されていることを確認しました。

次に、本年度の具体的な取り組みについて、2点から説明を行いました。

取組①

わくわく登校 笑顔で下校のためのふれあい活動の充実

取組②

称賛の場づくり

これら2つの取組について、学校、家庭、地域それぞれで取り組んだり、ともに協働して行ったりすることで、共育目標「思いやりの心を育てる校区づくり」をめざしていくことを確認しました。

本年度の計画は、以下に示すとおりです。

第1回5/14	・本年度の年間計画
第2回9月	・前期学校評価 ・「OBCいじめをなくそう!子どもサミット」について ・熟議のテーマ「(仮)豊かな体験活動となる取組」
第3回12月	・2学期の行事等について ・熟議のテーマ「(仮)取り組んだ豊かな体験活動の成果と課題、今後の取組」
第4回2月	・本年度の成果と来年度に向けた改善点や方向性について

○下大利小学校いじめ防止基本方針について

教頭より、下大利小学校のいじめに対する基本的な考え方を確認しました。

- いじめは、「人間として絶対に許されるものではない」という強い認識を持つ。
- いじめは、「どの学校、どの学級、どの子にも起こりうる」という危機意識を持つ。
- いじめ発見の際は、「いじめられている子を最後まで守り抜く」という信念を持つ。

学校運営協議会が“いじめ防止対策委員会”となることから、今後いじめに関する報告を行うことや重大事案が起こった際には臨時的に会議を行うことを確認しました。

○通学路安全点検について

昨年度の通学路の安全を守るための取組を報告するとともに、現在の危険箇所に関する情報提供の依頼をしました。今後、1学期中に皆様のご意見をまとめて、報告書を市役所に提出する予定です。



【地域・保護者からの感想】

- 子どもたちが楽しめる地域行事を充実させていきたい。(東大利副区長)
- 読み聞かせの中でも、平和学習や昼休みの読み聞かせなどわくわくする企画をしていきたい。(読み聞かせボランティア)
- 地域で子どもが活躍できる場を作っていきたい。(民生委員児童委員)
- 中学1年生が入学し、在校生とともに頑張っている。小中の連携を大切にして、一緒に育てていきたい。(大利中教頭)
- 小学校入学の姿を考えて、見通しをもって地域の方と協力してながら育てていきたい。通学路の危険箇所については園でも活かしていきたい。(保育園園長)

貴重なご感想、ご意見ありがとうございました。

【立石先生からのご指導・ご助言】

- ・「めざす教師像」＝めざす大人像である。子どもの行動から思いを理解し解釈することが可能性を信じることにつながる。
- ・「委ねる」教師では、わくわくさせること、できる状況を作ること、プロセスを見守ることが大切。
- ・失敗経験を大切にすることは、ピンチをチャンスにすること。失敗した後にはどうするか子どもに考えさせてほしい。
- ・子どもに自信を持たせるためには、「ほめる」ことは大切。事前にすることを伝え、できたときにほめることで、子どもの満足度が高まる。



価値付けをしていただき、ありがとうございました。